



じょうきょうじ
浄敬寺だより

発行日 令和三年一月一日 第三十六号



↑ 年末法話会盆参会 ↑

報恩講お引上げ ↑ →



お彼岸中日 ↓ →

← ↓ お盆



お寺ヨガ

【 法語 】

一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、
威の大なる事にてはなく候。
一人なりとも、人の、信を取るが、
一宗の繁昌に候う。

『蓮如上人御一代記聞書』 真宗聖典八七七項

【 意識・解説 】

「一宗がにぎわい、大いに栄えているということは、人が多く集まって、大変な威厳があるということではありません。一人であっても、信心を得た人がいるということが、一宗が繁栄しているということなのです。」

仏法に遇っていただきたいという願いから、「人の多く集まること」を一つの目標にもしてきました。そこへ来て、この一年の状況。三密（密集・密接・密閉）を回避する：ということへの不便さも感じていました。しかし、このお言葉。これは、五〇〇年以上も昔の蓮如上人のお言葉です。

大学卒業してすぐの頃、大変熱心な御門徒の方に出会いました。ご自宅を会場に、当時宗門でも名立たる先生を講師に、聞法会を開いておられる方でした。近年は年賀状だけのお付き合いでしたが、共通の知人を通じてご縁が繋がりに連絡を取ったところ、様々な行事が中止となった今年も休むことなく毎月の会を続けておられたことを知りました。

「こんな時だからこそ、（仏法を）聞かねばならないの。」
そう言われた言葉が耳に響いています。

☆巻頭法話『年頭にあたり』☆

思いもしなかった新型コロナウイルスの感染蔓延で日本中が振り回された昨年でした。昨年末の年末法話会は「コロナ禍の時代と真宗門徒」という講題で新潟市の田澤一明師よりお話をいただきました。新型コロナウイルスは私たちの生活の多くのことを変貌させましたが、私にとって何より大きな変化を感じたのは葬儀の姿でした。それまでも兆候は有りましたが、家族葬という形での葬儀の小規模化が一気に進みました。商業主義に流されて必要以上に肥大化した従来の葬儀のやり方に問題を感じてはいましたので、それはそれで良い面もあったように思います。しかし逆に心からお別れをしたいと願う人との別れが叶わないという現実も生じていたように思います。私も大変お世話になった方の死を知らず、何カ月も経ってから耳に入ってきたということも有りました。人は一生の間に多くの方と出会い、多くの人間関係を結びますが、その人生の最後にお別れをすることも許されないとすることは、別れの悲しみを癒すという葬儀のもう一つの意味さえ奪ってしまうことでもあります。葬儀は人生の卒業式でもあり、お浄土の入学式でもあると言われますが、そういった葬儀がコロナ禍の時代においてどうあるべきなのか、自分自身の問題として考えて

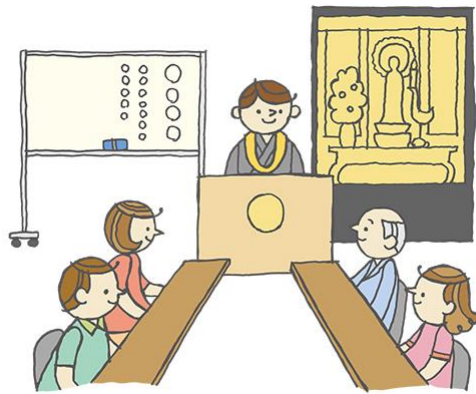
みる必要があるように思いました。

さて、柏崎市にコロナ陽性者が発生すると、市長さんが防災行政無線で市民に報告されていましたが、その最後に必ず自分がそういう立場になったことも考え、人権には十分配慮してくださいと付け加えておられました。市長さんがわざわざそう言わざるを得なかったということとは、現実にそういう問題があったということかと思えます。年末法話会のご講師のお話の中で、親鸞聖人が私たち人間の有様を言い当てたお言葉を紹介してくださいました。「凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむところおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」（一念多念文意）親鸞聖人にして打ち消すことが出来なかつた煩惱の心は、八百年近く経った現代の私たちの心の中にも厳然として存在しているものです。しかし、日常生活の中で私たちはその心をほとんど問題にすることはありません。自分の価値観に合わない者は排除し、常に自分中心の中に安心を見出している私たちの有り様。その心を明らかに照らし出してくれるのが仏法です。「仏法には、世間のひまをかきてきくべし。世間のひまをあけて、法を聞くべきように思う事、あさましきことなり。仏法には明日と云う事はあるまじき」（蓮如上人御一代記聞書）という厳しいお言葉もあ

りませんが、コロナ禍の時代は考えようによつては聴聞に適した時代であるのかも知れません。今年一年、寺も感染予防に努めながら、聞法の場を開いていきたいと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

合掌

（住職）



お知らせ

皆様からお寄せいただきました七月豪雨の救援金（三万四千円）は、本山の救援本部に届けました。ご協力ありがとうございました。

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から坊守の所感をお伝えします。



◎八月七日、二人の孫が本山で得度式を受式させていただいたことは前号でお知らせしましたが、秋彼岸会に住職、当院、准坊守と一緒に仕出し、お勤めをしました。その後姿に、足のしびれは大丈夫かと心配していましたが、緊張しながら最後まで頑張っていました。参詣のご門徒の皆様から温かい言葉をかけていただいた二人は笑顔もみられ、思い出に残る初出仕になったことと思います。

◎昨年の春彼岸からお齋を寺で作れなくなり、何とも張り合いの無い一年になりました。仕出し屋さんをお願いしてお持ち帰りお齋を用意させていただきましたが、今年も状況を見ながら進めたいと思います。どうかご理解いただき寺の行事にご参加をお願い申し上げます。

◎門前の掲示板の言葉はその時々仏様の願いを書かせていただいております。三十年前ご門徒の皆様のお賽銭を積み立てて形にした掲示板でした。初心を忘れず発信していきたいと思えます。

☆二〇二〇年後半を振り返って

◎秋彼岸（お中日・九月二十二日）法話 当院

時間を短縮し、おときをお持ち帰りいただく形で勤めました。学校休日ということもあり、夏休みに得度した唯信・顕信もお装束をつけてお勤めをしました。僧侶として仏道を歩み始めたことを、皆様と一緒に喜んだお彼岸でした。左記、法話要旨です。

二〇二〇年は何処も生活様式が一変してまいりました。ですが、この状況がずっと続くことはありません。お釈迦様はこの世は「諸行無常」、形あるものは常に移ろいゆくものである、と説かれています。現在の世界的なこの状況も必ず変わっていきます。その時、また多くの皆様からご聴聞いただくことを願っております。

◎報恩講お引上げ（十月八日）

五月十九日から延期してお勤めでした。お馴染みの今泉温資先生のご法話では、コロナ禍の日々を振り返りながら、お念仏の教えのもとで私たちはこの難局を必ず乗り越えていける…と、熱のこもったお話をいただきました。

真宗門徒にとって最も大切な御仏事が宗祖親鸞聖人の御命日の報恩講です。例年よりも勤行次第を時間短縮し、坊守が丹精込めて準備する手作りのおときを残念ながら召し上がっていただくことができませんでしたが、法要を中止することなく厳修できましたこと、ご出仕の法中御寺院方にも、お手伝い・ご参詣いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。

昨年に引き続き、村井氏よりビオラの演奏をしていただきました。馴染み深い名曲の数々を弾いていただき、心温まるひと時を過ごしました。

◎赤倉有縁講 団参（十一月十三〜十四日）

実施できるか不安な状況でしたが、急な誘いを受けて、四名で参加してきました。有縁講幹事の上越居多ヶ浜記念堂・古海先生と一緒に記念写真です。

『赤倉ホテルの念仏ばあちゃん』の映写会と古海先生の講演会が六月十九日に産業文化会館で予定されています。ぜひ皆様足をお運びください。

（坊守 記）



◎年末法話会 法話 田澤一明師（十二月十三日）

「コロナ禍の時代と真宗門徒―宗祖現代にましませば―」
二年ぶりに、新潟市南区の明誓寺住職 田澤一明先生からお話いただきました。現在、世界中の人々の生活を一変させてしまったコロナウィルスを我々は真宗門徒として、どう受け止めたらよいのか？という疑問に直面しています。

真宗門徒について、田澤先生は曾我量深先生の言葉「真宗門徒の学びとは赤表紙と新聞の間に身を置く教え」を紹介されました。赤表紙（赤本）の教えに依れば現実がおろそかに。現実には依れば教えがおろそかに。その中間に身を置いて生活する。それが真宗門徒であると教えてくださいました。

現在、三密を避けることが推奨され、社会形態が変わり不満もあるが、その中でも私たちは良かれと思うことを見出し、それを享受しようとしている。また過去と同じようにそこにまた差別が行われている。教えと現実の間に身を置くことで、そのような今の私が見えてくる。凡夫であるということである。

凡夫であり、自分が仏弟子に成り得ないということが光（仏法）に遇っていること。そこに人と人そして共感できるのではないかとお話をいただきました。

（ 当院 記 ）

☆真宗門徒の豆知識「パート1」

真宗大谷派門首が交代されました



大谷暢顯第 25 代門首
現・前門（釋淨如）

二〇二〇年七月一日、二十四年の長きにわたり門首の任にあたられた大谷暢顯門首（現・前門）が退任され、大谷暢裕門首が、真宗大谷派第二十六代門首に就任されました。十一月二十日には、真宗本廟の御影堂・阿弥陀堂にて、門首継承式が行われました。その様子は、東本願寺のホームページからご覧いただけます。

豆知識！「門首」の意味
門徒の先頭に立って聴聞する方…という意味を込めて「首」という字を使います。真宗門徒は、仏法聴聞し、念仏申すことが生活の中心です。



大谷暢顯第 26 代門首
現・門首（釋修如）

前門首とは
いどこ

父親の南米開教使発令に伴い
幼少期にブラジルへ渡る

ブラジルでは
航空技術研究所に勤務
されていた物理学者

語学が堪能で
門首就任のご挨拶は 3 か国
のお言葉でお話されました



ちょっくらご紹介

☆お寺潜入レポート 第四回【コロナ禍の浄敬寺】

浄敬寺の中の意外と知られていないこと（内部情報？）を准坊守・晴香目線でお知らせする『お寺潜入レポート』。今回は昨年を振り返り、コロナ禍の日々とこれからの方針についてお知らせします。

☆行事の中止・延期・再考

二〇二〇年二月、平井地区の皆様にお当番をしていただき、初お講を行いました。その後状況が一変。三月のお彼岸以降は「おとき」を召し上がっていただくことができず、昨年はお弁当をお持ち帰りいただく形が続きました。主な変更は左記のとおりです。

- ・ 報恩講お引き上げ・・・五月から一〇月に延期してお勤め
- ・ 夏の法話会：中止
- ・ 盆参会：おときお持ち帰りにて予定通り実施
- ・ 夏休み子どもお楽しみ会
- ・ ……時短版お念珠作りに変更
- ・ 定例『歎異抄』をよむ会：年内中止
- ・ ……しまい講：お引上げの延期により中止
- ・ 年末法話会：予定通り開催、懇親会は行わず

☆本山・東本願寺の対応

三月以降の学校休業を含め、世界中で様々な対策が講じられました。同じように、宗門でもガイドラインが出され対応しております。その中でお勤まりになった十一月の御正忌報恩講は、お勤めの僧侶はマスク、前にはパーテーション、おときでは一人ずつ独立した席に・・・と、まさに、どのような形でこれからの仏事を行うっていくかというモデルを示された法要でした。

☆新年以降の浄敬寺の方針

念仏申すこと、ともに唱和するお勤め、語り合う場、いわば「密」を大事にしてきた仏教徒、真宗門徒ですので、苦しい状況であることは否めません。それでも、聴聞の場を開くことをあきらめず、年中行事を執り行いたいと思っております。

マスク・消毒等、皆様には引き続きご協力をお願いいたします。



☆二〇二一年前半の行事予定

一月一日 修正会勤行 朝六時より
 一月一～二日 年始参

*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう



二月十三日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

三月十三日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

三月十七～二十三日 春彼岸

*お中日 二十日(春分の日)

午前十時半～法話・勤行後・おとき

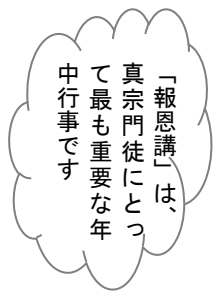
四月十日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

五月十九日(火) 報恩講お引き上げ 午前十時～

法話 今泉 温資 師

引き続き 勤行・おとき

午後二時～ 帰敬式



「報恩講」は、
 真宗門徒にとっ
 て最も重要な年
 中行事です

六月十二日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

六月十九日(土) 第十組同朋会公開上映会 午後二時～

映画 『赤倉ホテルの念仏ばあちゃん』

会場 産業文化会館 文化ホールにて

六月二十七日(日) 夏の法話会 午後一時半～

講師 佐野 明弘 師(石川県加賀市光闡坊住持)

七月十四日(火) 盆参会(盆内) 両日とも十時半～

十五日(水) 法話・勤行・おときがあります

八月一日(日) 夏休み子どもの集い 午後四時～

八月十三日～十六日 盂蘭盆会(お盆)

十三日・・ 午前六時より 本堂にて勤行

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

*基本的に第二土曜日午前九時より

*内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

(終了後、ささやかな茶話会あり)

*持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』の冊子



*変更を余儀なくされる場合もございますが、ご承知おきください。速報はホームページに掲載いたします。

☆真宗門徒の豆知識「パート2」兼

浄敬寺での「帰敬式」のご案内

ちゃっぴん
解説&ご案内

昨年組の御遠忌法要にて帰敬式が執り行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け延期となりました。そこで、今年は報恩講と同日に、浄敬寺本堂での帰敬式を企画しております。



☆帰敬式とは

帰敬式は仏弟子の名のりである法名をいただく儀式であり、南無阿彌陀仏の教えに導かれて、我が人生を生きるための出発式です。ですから、生きている「今」受式するのが、本来の意味です。帰敬式では法名が授与されますが、その法名にはどのような意味があるのか、続いて解説していきます。

☆法名とは

法名には必ず「釋」の一字が入ります。これはお釈迦様の一字をいただきお釈迦様の弟子、仏弟子になったことを意味しています。生まれたという事は、病むことも老いることも、そして命を終えていくことも内包しています。いずれ命を還していく身である私たちが今どう生きるのか：その問いに向き合い、真実に目覚められたお釈迦様（仏陀）の弟子として、依り処をいただいたという名のりが法名です。

☆浄敬寺での帰敬式執行にあたって

帰敬式は、御本山や別院、または手次寺院の住職のよって執行されま。遠方まで帰敬式を受けるために向かわれるのが困難な方に：と昨年組の御遠忌での受式をお勧めしておりましたが、組の御遠忌が次年度以降に延期され、帰敬式についてはまだ詳細が決まっておりませんので、今年、浄敬寺の報恩講の際に帰敬式を計画いたしました。

この度の受式をご希望される方、またご興味のある方は、ぜひお気軽にご相談ください。

☆浄敬寺での帰敬式詳細

- *二〇二一年五月一九日（水）
- 報恩講お引上げ法要の後、午後二時～（一時間程度）
- *冥加金 一万円（二十歳以下の方五千円）

お申し込みは四月三〇日までにお願います。



帰敬式次第

- 一、開式の辞
- 一、真宗宗歌斉唱
- 一、三帰依文
- 一、剃刀の儀
- 一、執行の辞
- 一、法名伝達
- 一、誓いの辞
- 一、勤行
- 一、法話
- 一、恩徳讃斉唱
- 一、閉式の辞

- ・本堂にて椅子席で行います
- ・当日、式の流れについてご説明します

*帰敬式受式の記念セット
門徒肩衣、赤本、勤行お稽古用 CD 等々



「あつまれどうぶつ森」というゲームを子ども達と遊んでいます。生き物を捕ったり、作物を育てたりと勝ち負けのない斬新なゲームです。そのゲーム上でお釈迦さまも生活された「竹林精舎」を再現したいと思いい竹を植えたのですが、翌日子ども達に伐採されてしまいました。実に残念です。その竹ですが、竹の性質は仏教の喩えとして用いられます。

特に新潟県では竹と仏教について熱心に伝えられています。例えば、横に伸びる竹の根は、地盤を固くするので、自然界で最も恐れられる地震にも耐えうるとされます。そのため、昔から新潟県では「地震の時は竹やぶに入れ」と云われています。余談ですが、私が大学生の時、関東では関東大震災や富士山の噴火が警戒されていました。そんな時、友人と関東大震災が起こったかどうかと話合った時、私は「竹やぶに入らんと」と答えたところ、大爆笑されました。関東ではそのような伝承は無いようです。そんな竹林は、安心できる確かな場所として、阿弥陀如来のお浄土に喩えられています。また、そこに伸びる竹はよくしなり折れることのない如来の智慧、仏法とされます。そして、その竹の中でも一生の内に目に掛かれれば願いが叶うといわれる「逆さ竹」は「南無阿弥陀仏」お念仏の象徴とされています。

そもそも、そのような竹にまつわるお話が新潟で伝わったのは、親鸞聖人が新潟市の鳥屋野湯で、お念仏の布教を願われて竹を植えたことに由来します。親鸞聖人が植えた竹は「逆さ竹」となり、周辺は広大な竹林となりました。その竹林と逆さ竹は越後七不思議の一つになっています。

もし子ども達がこのお話を知っていたら、ゲーム内に「竹林精舎」ができたかも知れません。

(当院)



☆編集を終えて：

世の中全体が新型コロナウイルス感染症の脅威に振り回されておりましたが、仏事も例外なく、浄敬寺の報恩講お引上げは春から秋に変更、三条別院のお取り越し報恩講も団体参拝を受け入れず教区内でお勤めし、本山の御正忌報恩講も規模縮小となりました。それでも、蓮如上人が報恩講について記された御文の中の「毎年不欠」のお言葉通りにそれぞれお勤まりになったこと、報恩講を大事にしてきた歴史の重みを改めて感じています。

別院報恩講では、今年も御文を拝読させていただくお役をいただきました。拝読しながら、「ご自宅のお内仏の御文箱を風呂敷に包んで持参し、浄敬寺の定例会に通ってくださいましたお同行のことを想いました。丁寧に扱う・丁寧に読むということは、もう少し若い頃は作法を間違えないよう・読み違えないよう…と気を取られましたが、少し歳を重ねた今、「丁寧に」という言葉のニュアンスが変わってきました。私にまで届いてきた歴史や、師のご恩、ご縁をいただいた方々との出遇いを背景にした「重み」や「丁寧さ」というものがあることを感じています。

世間がどれだけ目まぐるしく動いても、今の自分を育ててくださった背景があることを忘れずに日々を送りたいものです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(晴 香 記)

☆連絡先

浄敬寺

TEL:0257-22-2481 Fax:0257-222140

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

